

明治七年六月

在琉球藩公館模倣替黃金ノ儀ニ付伺ノ件

外務省

REEL No. 1-0319

0423

庶務局

万四五百十九号

録

中輔 (E)

辨事局
右局
庶務局

在琉球藩公館模様碁黄舎了儀

琉球藩在勤者四人に定むる三人に公館
に居信一人を致知宗居了事石俣如
古了了了旨方今館中在信了宗に元金百圓
信了乃費ヲ掛拂様碁了以て四人と
日而居信を調可申 然公館中に修繕
向了藩費に定置了信共右掛拂様碁
藩金ヲ以て改辦用ハるに藩人ハ之氣受
者少何と存了旨以申 今信了内ヲ以て改造管

六月十日 万四五百十九号

外務

以後了修繕立白敷碁了一切藩費了
お多の掛拂了旨存 信了出了旨申也

申渡七年六月九日 知事如碁碁了旨

太政大臣三修書美殿

伺之趣聞届候事

申渡七年六月九日

右局
庶務局
印

第四号十九号

在琉球藩公館掛札習費令一紙

琉球藩在勤方四人一疋負、の三人は公館内、居住
夫人は波外宿者、勤事不便利、有、以、有、方、令、館、中
之付、之、元、令、百、四、位、入、費、ヲ、掛、札、習、費、以、以、
四人とも同所、有、便、者、個、下、下、物、を、館、中、に、修、繕、命、じ
藩費、定、置、り、一、元、云、掛、札、習、止、し、藩、令、ヲ、以、加、被、兼、用
少、令、主、藩、人、之、氣、更、上、如、何、と、存、り、各、所、用、令、一、内、ヲ、以、被、
造、管、以、後、し、修、繕、之、付、為、習、者、ハ、一、切、藩、費、に、お、き
少、能、被、交、返、し、依、り、各、所、お、伺、り、也

六月

四号

外務省

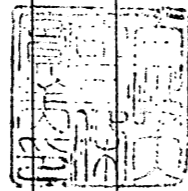
明治七年五月九日

外務卿寺澤宗則

太政大臣三條实美殿

伺趣聞届事

明治七年六月二十日



自明治七年六月

琉球藩管理ノ儀内務省へ引^継付ノ件

外務省

REEL No. 1-0319

0426

輔山

本局

琉球藩之海内務省ヲ管理ニ由ル

琉球藩之海内務省ヲ管理ニ由ル
王賜封ノ折柄一時當省管理以知府當
省ヨリ官吏派出以令ニ至ル迄在事ニ係
取扱事居テ信具一併其君臣之華
族ニ列シ其上以ハ府縣ニ比シ河事ニモ以
同ノ日格ニ以テ故其事務ハ都ノ外

外務省

務省ノ管理ニ係ルニ於テ事務於修理不在立
川ノミナラス自然外國ヲ以テ視テ其
一併ノ修言意ニ於テモ元都令設在
之方事未ダ日藩ノ海内務省ニテ管理
ルル如蒙ニ有テ奉旨ニ召替ニ有テ
日黄ノ以還古ク交出スル事

修也

明治七年六月廿九日 外務省事務

太政大臣三條實美殿

上申之趣聞届別紙之通内務
省琉球藩へ相達候修書旨
可相心得事
明治七年七月十二日
右政方
臣三修
兼印

明治七年七月十二日附内務省並琉球藩へ相達候修書旨
署名 編者附言

外務省

寫濟

田務省

琉球藩自今其省管理被仰
付修條諸般外務省、打合
可受取以右通條事
但島内通同藩、右通條

事

明治七年七月三日

太政大臣三條實美

外務省

寫濟

琉球藩

其藩事務自今內務省
於管理修繕出与内達
事

明治七年七月三日

太政大臣三條實美

外務省

琉球藩儀内務省ニテ管理
為成及与上申

琉球藩儀先年内附ノ名義ヲ認正
冊王賜封ノ折柄一時尙有管理
似有南有ヨリ官吏派出即今ニ至ル迄在
事務取扱来居ル得共一律其君臣ハ華
族ニ列シ其土地ハ府縣ニ比シ何事モ徳國
内同様ニシテ其ノ内其事務ハ亦テ外務省
ノ管理ニ歸シ之ヲ於條理不相立ルノ一
ナラズ自然外國ヲ以テ視ル安ニ相商シ一
六月二十号

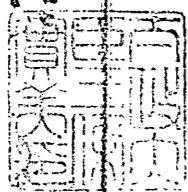
太政官

俸ノ徳主意ニ於テモ不若今給ル如ク
爾其同僚ノ儀ハ内務省ニテ管理
相商ニ可者之事務ハ亦其後早ニ同
有ニ相違有ニ其法及上申也
明治七年六月廿九日
外務卿寺島宗則

太政大臣三條公美美殿

上申ノ趣聞届別紙ノ通内務省琉球
藩、相達候條此旨可相心得事

明治七年七月十二日



内務省

琉球藩自今其省管理被
仰付此條諸般外務省手
合可受取此旨如違此奉
但別命之通同藩如違此奉
明治七年七月十二日

太政大臣三條實美

太政官

琉球藩

其藩事務自今内務省
於其管理各條此旨如違
事

明治七年七月十二日

太政大臣三條實美

太政官

寫濟

為我清國之通商口岸
應以建設為第一要務

上海總領事官

外務部
大臣 陸徵祥

七月二十七日

太政官

庶務局 (印)

琉球藩自今当省官程云

作并口位別紙ニ通シ建方々々及申通知付

云々是云云於日省々々扱扱巨細兼知該等且右

REEL No. 1-0319

0435

内務省

琉球藩自今其省官管理
後身以降諸般事務省へ
可受取法者ありて是
修事

但おあり、通口之屋へ
申上るべし

明治七年七月二十日

大政大臣三條實美

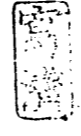
内務省

琉球藩
 其の藩事務自多内務省
 於テ管理ハ際決シテ其邊ノ事

明治七年七月ノ事

内務大臣三浦梧村

内務省



寫濟

天

七月十日

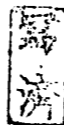
今般琉球藩之儀 當者より 渡官理吉
等 領分より 出有る 同儀 在 和 官 吏 等
當者へ 轉補 等 義 中 裁 移 渡 取 等

馬七甲の 東 田 等 領 分 同 儀 在 和 官 吏 等
領 分 同 儀 在 和 官 吏 等

七月 内務卿大之保利通

外務卿大之保利通

七月十日 内務省



既練藩より勢是近能は有る事極有る存
属する事敷く事引渡さるる日引合後

海舟了し是より所よりわたりて
より海よりしり流海河以
事よりより御合後也

七年七月九日

大久保内務卿

寺島内務卿

内務省

七月三十一日第二三三三三

庶務局

才三三九号

九月二日

庶務局 左記

由務部少丞

外務部少丞

陸海省庶務課長に送付するもの取扱
右に属する書類等四引渡すに付、是等之
類の取扱に、右に於て、陸海省に付、是等
の取扱に、右に於て、陸海省に付、是等
の取扱に、右に於て、陸海省に付、是等

十年七月三十日

外務省

明治二十三年

外務省
外務省
外務省

外務省

内務大臣
外務大臣
是迄外務省
書部
外務省
七年八月五日

外務省



記

琉球使臣来朝始末 二册

琉球使臣上京書狀 一册

伊地知在琉中書狀 一册

琉球舊諸件上陳 一册

琉球右勤表 一册

注翰 一册

琉球舊所扱書狀 二册

外務省

琉球舊諸調書 五册

一拾四册

光緒二十九年六月廿七日
欽此

過日及出城三累乃陸路各事勢
是途於省所及擬之書款列係
少同之商出河一書成之乃
乃此每少少同之乃也
七年六月廿七日

中書大臣

外務大臣
少

八月二十三日 三万十號
内務省

寫濟

寫濟

過百乃由掛合蓋并既既着事務是近
於此省、此可扱く事、其外、此目録

七年八月廿日

内務省

外務省

八月二十三日
内務省

寫濟

記

一 琉球使臣來翰如來

二冊

一 上京書預

一冊

一 領地系在琉中書類

一冊

一 琉球屬諸伴上陳

一冊

一 琉球在動來翰

一冊

一 日性翰

一冊

一 琉球屬少冊書類

二冊

一 諸國書

五冊

一 抄四冊

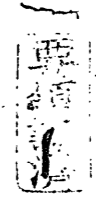
内務省

Handwritten text in a small box at the top right, likely a header or title.

Main body of handwritten text in the large central box, written vertically.

Handwritten text below the main body, possibly a signature or date.

Handwritten text below the signature, possibly a name or title.



登

琉球事務は近於本省に於て事務
に付て少くも其の旨を本省に於て

に付て少くも其の旨を本省に於て
に付て少くも其の旨を本省に於て

に付て少くも其の旨を本省に於て

に付て少くも其の旨を本省に於て

に付て少くも其の旨を本省に於て

内務省

寫

印

記

一 琉球傳自來朝始末書壹冊
一 琉球藩法綱書 五冊

六冊

内務省

REEL No. 1-0319

0451

第一卷の...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

Handwritten Japanese text in a vertical column on a page with horizontal ruling. The text is written in cursive (sōsho) style. The characters are difficult to decipher precisely but appear to include names and dates. The text is written from right to left within the column.

REEL No. 1-0319

0453

官

先設琉球藩事務當省管理
 職仰有以同藩之在勤之使省
 官員當省之轉補其年以文堀
 江權中錄而已其省官員之在勤
 外國交際事務取招當省事務
 兼勤其在如好也最早其省及
 外如出張政事及尚交其經合
 之趣政兼其在當省之於之差支
 之助事之交代之義之當省官

十九世百四十七年
 内務省

負派遣可為致其問其申越之因
 其取計有之度此旨及其因及
 其也

内務省
 印

外務卿寺崎宗則及

明治二十一年三月廿一日

文部省

文部省

文部省

文部省

文部省

文部省

明治二十一年三月廿一日

明治二十一年三月廿一日

外務省

大正十一年

在籍疎著の給程中、
西之河船形便、
可也

幸其力努之由

内務省

ナリナ、中田名中、
内務省

Vertical lines for text entry in a document form.

REEL No. 1-0319

0456

自明治七年八月

琉球藩王ヨリ琉球人蕃地、於テ虐殺セラレタル
際、趙維ノ氏、護送セシ清官ハ謝セシ爲メ福建總
督宛至三回函贈進、実吾内務省ハ照會ノ件

外務省

外務省
三月三日

外務省

中務省
外務省
先年琉球人著地於...
道難之民と復て...
五... 福建總督の物...
と... 善... 福島の...
李... 台... 有...
中務省...
知之...

外務省

外務省

本信標

中務省事務の概略を
表すべく、
建總督の御名刺を
向在の御名刺と
相違ないかと
平に御返及し
候程に
也

外務省

方二百十九号

記了

口抄者事 勿揚士之
瑞林藩子任國福建海船に於て金
子賜付之虚実及同屋並に宗瑞
疎藩に授けられたる調子に於ては
其の左の如く記す所なり
高之文之如條あり加之字體
善否今一書に調査する所なり

外務省

照在... 知照... 海軍省... 陸軍省... 文部省... 内務省... 外務省... 逕中...

文部省

逕中

寫濟

逕中出... 照在... 知照... 海軍省... 陸軍省... 文部省... 内務省... 外務省... 逕中...

内務省

七年八月廿二日

内務省

外務省

逕中

公信課

公信課

外務省

記了

琉球藩、清國福建統督、押合金子
贈致、儀禮掛合、付抗球藩出役、者。

寫濟

文意、仍、瞭、ナ、ウ、ス、子、體、後、南、於、後
市、有、可、得、有、之、後、海、子、初、於、尚、大、出、役
之、者、上、同、者、也、以、有、一、上、同、之、後、有、之、者、附
礼、を、子、有、り、物、多、か、ち、常、守、り、之、を、後、に、
子、も、後、子、多、く、有、り、之、を、以、て、有、り、之、者、
八月廿四日
内務省

後、中、出、役、是、れ、凡、そ、の、之、を、後、に、守、り、之、者、
一、性、清、元、と、同、致、於、後、に、有、り、之、者、
有、り、之、者、也、
七年八月廿四日

内務省
外務省

中

寫濟

去年琉球人植蕃他處殺害者甚多是際
臣等隨之武を懲送せし後凡琉球
王と謝金を賜給事申す事一は我
外務省より呈上紀之由月迄之流罪
了之始末は右同様難既互助を以て
濟寧島々支那人に謝金一少一昨年
秋支那州之琉球人福安所_日
領子等遣はれ交ふの事_日を
領より呈上并之妻の初之も續々富元

内務省

上書向尚々々々相方より申上候事

申上候如

琉球藩

津波吉親方

琉球藩事務局長

受中

七年八月三日

外務省
公言課
明治二十六年
五月廿一日

公言課

由務省

外務省

琉球藩の臣國福達徳智に掛合を以て贈
及し唐文及し向合を以て謝礼として金子
三百兩を由公に由通せし由公の額并に續
きいふあふる旨海軍省に通知せし由公は
し琉球藩の臣國福達徳智に掛合を以て贈
及し唐文及し向合を以て謝礼として金子
三百兩を由公に由通せし由公の額并に續
きいふあふる旨海軍省に通知せし由公は

外務省

一月廿一日

寫

先年琉球人於蕃地虐殺者ありし時倭其通商
之民ヲ保護送セシ清國ハ琉球藩王ヨリ謝金
シラ金ヲ納致シ付ら名實數手續等詳細ニ
被成度去七年八月廿七日附テ以テ術合之趣ニ
基キ該藩ハ於是遣置候処別紙之通申出候
ニ付此般及テ通知申也

明治八年五月廿日 内務大臣

外務大臣

中

外務大臣

外務大臣

内務省

寫濟

光年琉球人臺灣蕃地漂流途難之際保護
送也候支那人共謝礼金箱送之義三付在
子負致及七年月年領一取箱可申出孫被仰
渡藩元申越弘方為仕候氣在金子之儀洋銀
三百負壬申年進貢船便ヨリ若渡福州海防
官願必官向高在難氏ノ故候支那人共謝致
配典越彼地在留之疏役ノ越有之候故申末候以
候申上候事

亥五月十八日

内務省